

兵衛もどめの事申候まゝ、則とどめ刺申候。旅人は兩人共に江戸の方へ通り被申候。しゆんは夫より直に鎌倉の御所へ参候て、尼に可成候間、鐵兵衛・吉兵衛はこれより歸り候へと申、鐵兵衛には右敵打候脇刺を遣し、禮の事は誠に言葉にも難及段申候。吉兵衛には金子一分遣し申候。取間敷よし申候得共、達て遣し候へば兩人共に、兎に角鎌倉迄送り可申由申候て、直に駕籠にのせしばらく参候間川有之。右の川にてしゆん帷子の血を洗候て、又駕籠にて鎌倉へ送届候。鐵兵衛は信州の者ゆゑ直に信濃へ歸り申候。吉兵衛は江戸へ歸り申候。しゆん事は望の通り尼に成り、智圓と相改候て、江戸へも修行に罷出候。

右智圓事當春の主人杉山東菴方へ参候に付、直に榊原式部大輔殿御留守居、咄し承候て書記し候。以上。

寅享保七年

松平伊豆守殿御家來遠山平助へ、今月二十四日致参會候故、仇討の儀に付、伊藤仙右衛門被打候節の様子相尋候處、平助申候は、此仇討の儀に付、去年以來方々より尋に参申候。從殿中も伊豆守殿へ、直にも御尋御座候得共、

河越に罷在候内、曾て承及不申儀に御座候。若し二十八年以前の儀、存知居申者小者足輕にても有之候哉とて、吉田迄も尋に遣候得共、覺申者無御座候。伊豆守河越より古河へ取替被仰付候は、元祿七年の儀にて、去年より二十九年前にて御座候。翌年元祿八年に松平美濃守殿、河越拜領にて御移候。二十八年前の儀に候。然ば河越舊領故、伊豆守と覺候哉、只今松平甲斐守殿家來中へ、相尋候はゞ知可申候。仇討の首尾は慥成事に候處、此一事不慥候ては、一大事も虚説の様に罷成氣の毒に存じ候。右女中只今尼に成り智圓と申候。此尼へ爲知申度ものと、平助初め一座の者共申候。以上。

卯三月二十五日

禮 幹

一、加越能三ヶ國人數高

加州河北郡

一、四萬三千三百十九人

内 貳萬二千八百三人 男  
貳萬五百拾六人 女

同國石川郡

一、九萬二千九十二人

内 四萬九千貳百四人 男  
四萬貳千八百八十八人 女

同國能美郡

一、四萬二千九百八十一人

内 貳萬千五百七拾八人 男  
貳萬四千四百三人 女

合十七萬八千三百九十二人

十五歳已上丑の年改

内 九萬三千五百八十五人 男  
八萬四千八百七十八人 女

越州新川郡

一、七萬八千九百五人

内 四萬千三百五拾四人 男  
三萬七千五百五拾一人 女

同國射水郡

一、七萬三千七百七十九人

内 三萬七千三百三拾七人 男  
三萬五千八百四拾二人 女

同國礪波郡

一、八萬五千五百八十三人

内 四萬四千三百拾四人 男  
四萬千二百六拾九人 女

越州惣高

合二十三萬七千六百六十七人

内 拾貳萬三千五百人 男  
拾壹萬四千六百六拾二人 女

能州羽喰郡

一、三萬二千五百九十六人

内 壹萬五千九百五拾八人 男  
壹萬六千六百三拾八人 女

同國鹿嶋郡

一、三萬三千一人

内 壹萬六千六百八拾七人 男  
壹萬六千三百拾四人 女

同國鳳至郡

一、四萬七千九百七十九人

内 貳萬三千六百拾八人 男  
貳萬四千三百六拾九人 女

同國珠洲郡

一、二萬二千八百八十一人

内 壹萬三千五百二拾七人 男  
壹萬五千五百五拾四人 女

能州惣高

合十三萬六千四百五十七人

内 六萬七千五百八拾二人 男  
六萬八千八百七拾五人 女

江州高嶋郡之内三ヶ村

一、千八百四十人

内 九百拾八人 男  
九百二拾二人 女

三ヶ國並江州高嶋郡之内三ヶ村共惣高

合五十五萬四千三百五十六人

内 二十八萬五千九十九人 男  
二十六萬九千二百六十六人 女

右は享保六年辛丑三州の民籍、從公儀御改如此。

但當山・大正持領並土家の類除之。寛文七年三州の民數凡五十七萬七千九百六十五人。比今年則多三萬三千六百九人也。

一、竹田權兵衛廣貞の書

御先代には御扶持人役者中、其品一統の様にて其趣は三段